

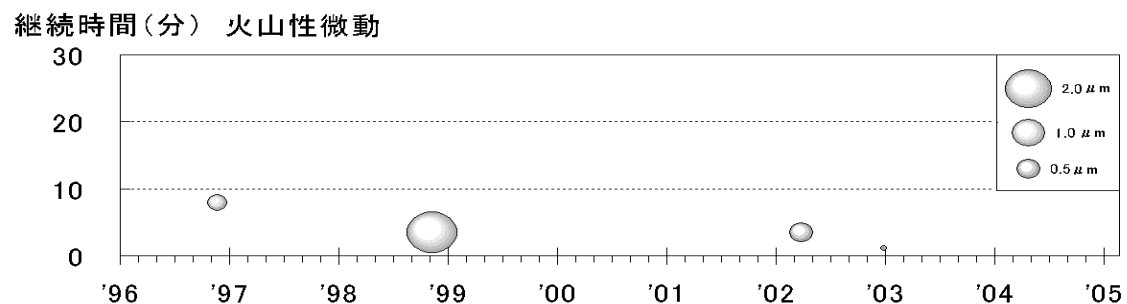
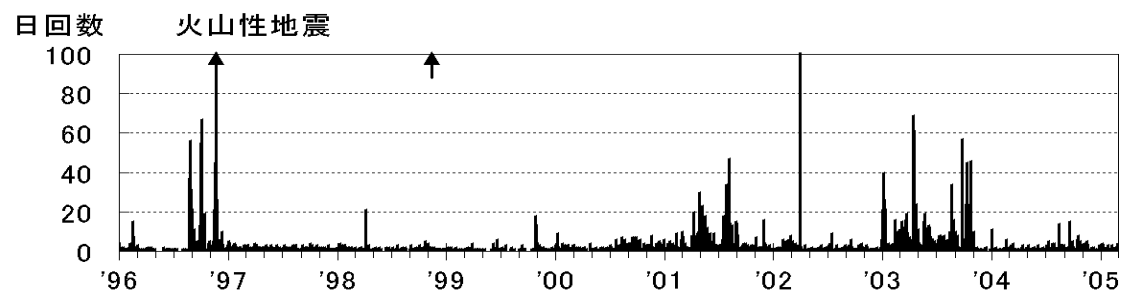
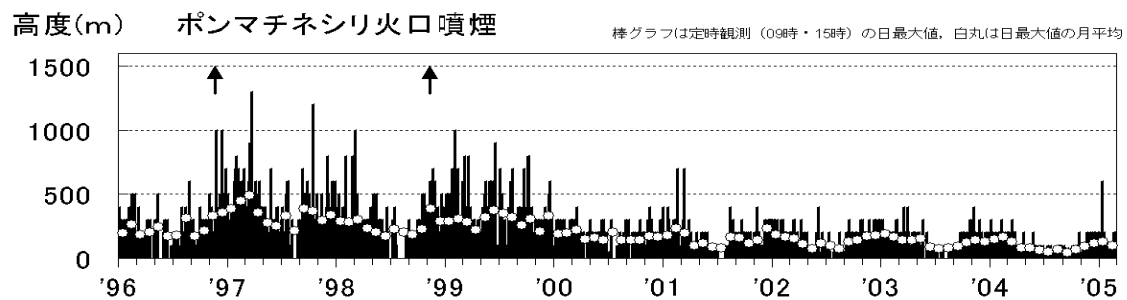
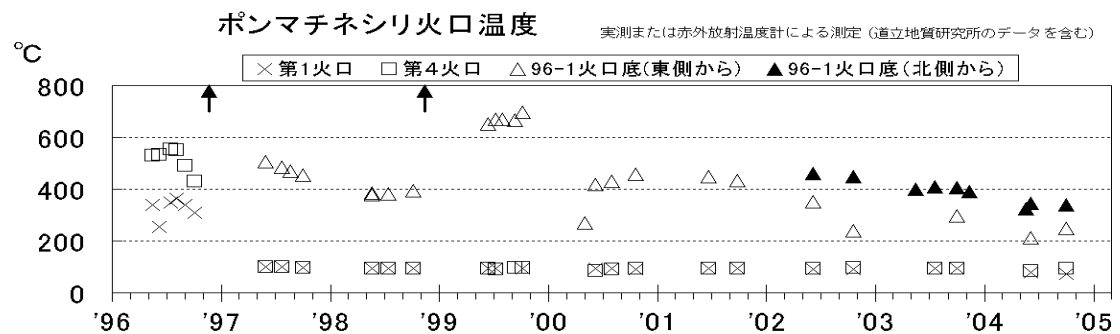
雌阿寒岳

1 概況

ポンマチネシリ 96-1 火口は高温の状態が続いていると推定され、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2 噴煙の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m で推移しました。噴煙の高さや噴出の勢いは 2000 年以降やや低下した状態が続いています。



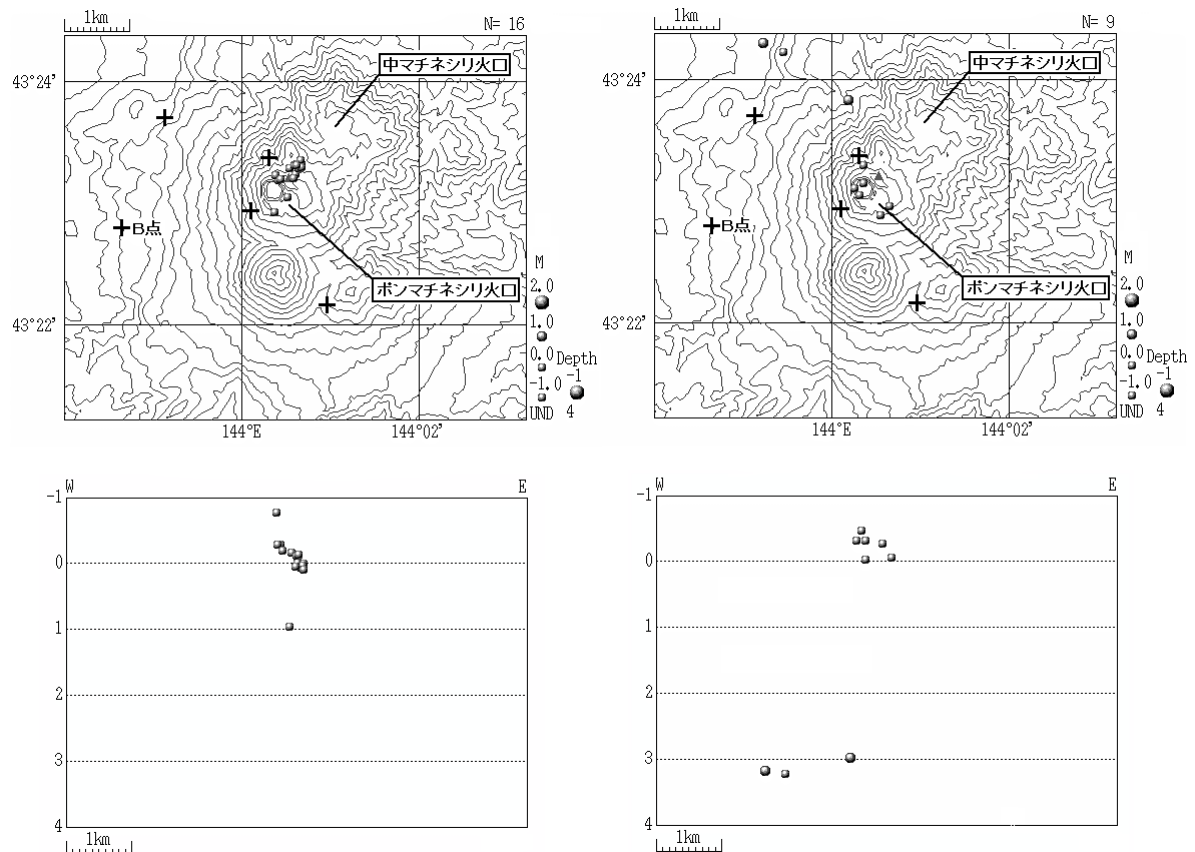
最近の火山活動経過図（1996年1月1日～2005年2月28日） ↑印は噴火

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は 1 日あたり 0～4 回と少なく、静穏に経過しました。震源はポンマチネシリ火口浅部に分布していました。火山性微動は 2003 年 1 月以降観測されていません。

地震・微動の月回数（B 点）

2004～2005 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
地震回数	17	15	16	17	33	52	42	40	28	9	26	19
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



雌阿寒岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

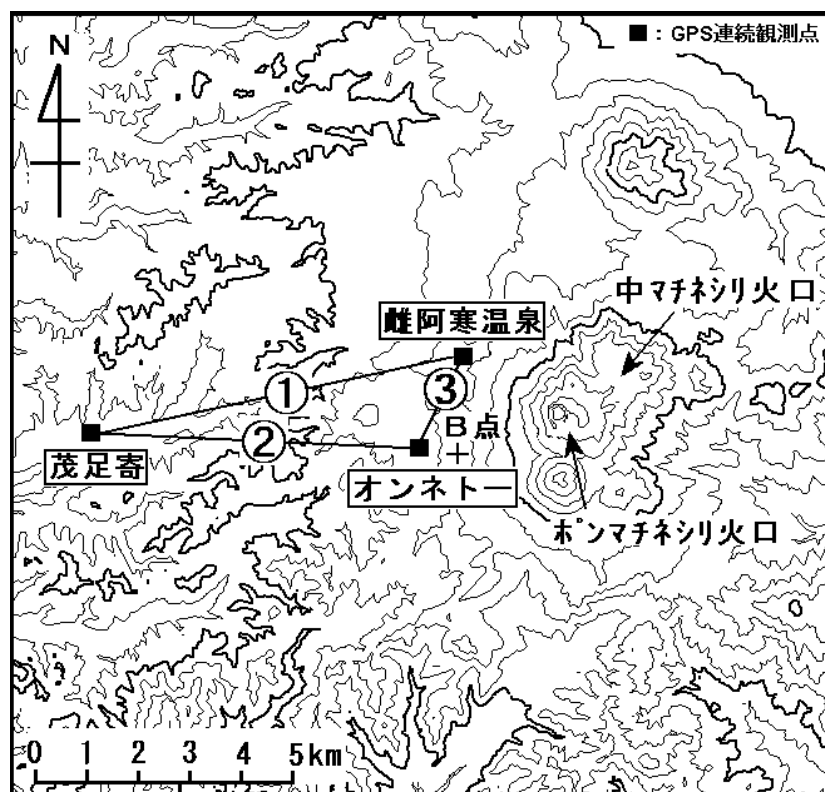
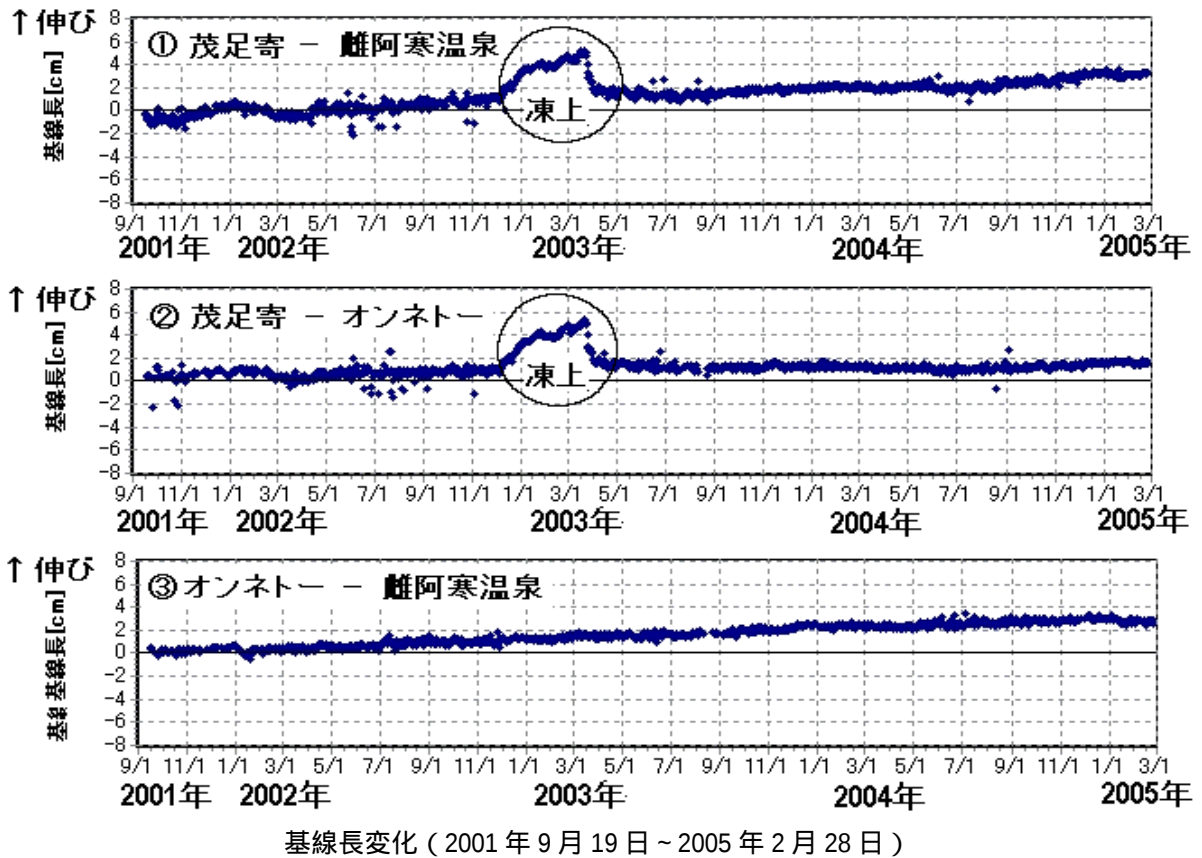
右図は今期間（2005 年 2 月 1 日～28 日）に求まった震源を示しています。

左図は前期間までの約 4 ヶ月間（2004 年 10 月 5 日～2005 年 1 月 31 日）に求まった震源を示しています。

震源は先月までポンマチネシリ火口縁の北側海拔 0km 前後に集中域が認められていましたが、今期間になってポンマチネシリ火口全体の海拔 0km 前後に分布するようになりました。このほか北西麓のやや深いところ（海拔下約 3km）にも分布しています。

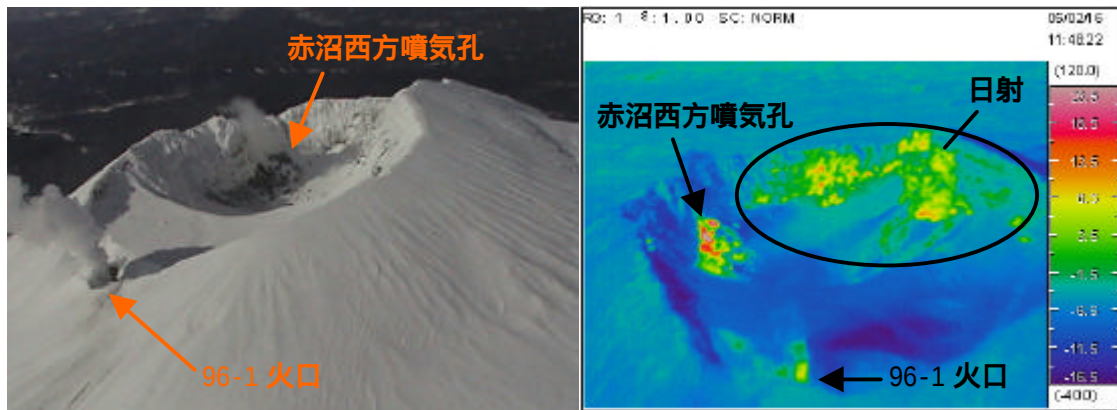
4 地殻変動の状況

西麓での GPS 連続観測では、わずかな伸びの傾向を示す変動が認められていますが、火山活動との関連については今後の推移を見て判断する必要があります。



5 上空からの観測結果

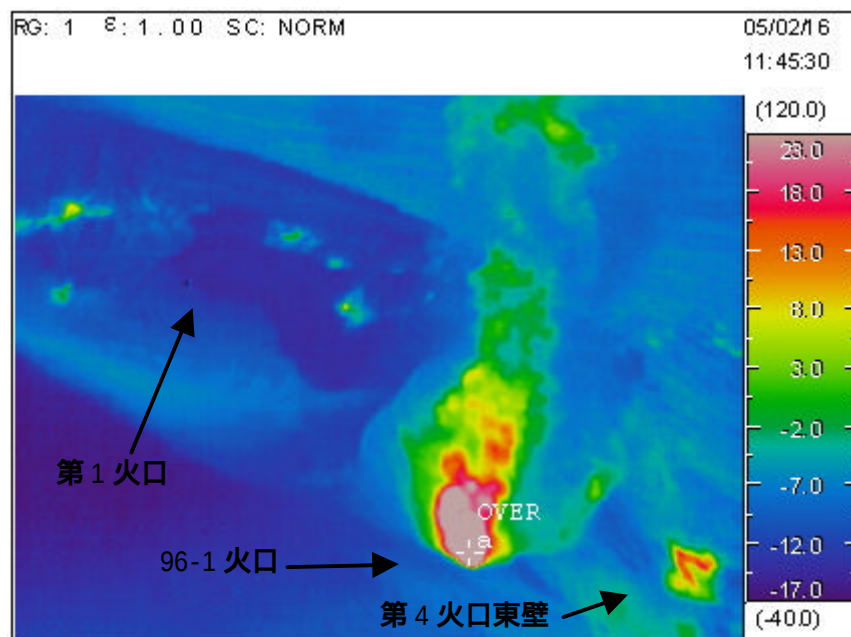
2 月 16 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口、赤沼西方噴気孔および中マチネシリの噴煙の状況はこれまでと比べて大きな変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による観測では、各火口周辺の温度分布に変化は見られませんでした。96-1 火口ではこれまで同様高温の状態が続いていると推定されます。



左：東側上空から撮影したポンマチネシリ火口の状況

右：南東側上空から赤外熱映像装置により測定した火口内の温度分布

注）北西～北側火口壁の高温部分は日射の影響によるものと考えられます。



北西側上空から赤外熱映像装置で測定した 96-1 火口周辺の温度分布

注）約 200 メートル上空からの測定では、96-1 火口内は最高温度が 120 以上（スケールオーバー）で、高温が続いていると推定されます。

* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。